



【ものづくり・人づくり・地域づくり】2018年度活動テーマ ～素材を活かしてわが家の味～

生産者から組合員へ!

**「どこよしも命を育もうとしている生協で
あり、物言う生協であり続けてほしい。」
生産者の会 社会部コラム!**

常総生協「生命^{いのち}育む生産者の会」(旧名:業者会)には農産部・水産部・加工部・社会部と4つの部会活動があります。どれも常総生協に商品を提供している生産者が常総生協の為に何かできないか?という想いから生産者同士が力を合わせて立ち上げてくれた会であり、その中で社会部は「社会情勢を含めた問題提起、考えを組合員さんへ発信していこう!」という事になり、不定期もしくは月1回で白鷹農産加工研究会の鈴木雄一氏(いのち育む生産者の会役員)が部会長として連載していく事になりました。

○社会部が生まれて1年になろうとしている。

社会部の存在を知るのもこのコラムを最初にする方も多いと思う。第一、社会部の意味が分からないということでもあるとおもう。一般的に、生協といえば食と暮らしに寄り添い、人々の健康的な生活を支える活動を営む協同体と考えられる。多くの生産者にとって、常総生協は他とは違う気概のある生協として、受け止められている。何が違うのかといえば、民主主義を貫きとおす姿勢である。民主主義は、存在するものではなく、継続的に創造するものであるだけに、そこには強い念力がある。強い思いの維持をどのようにして積み上

げて行くかは「試練」である。最晩年、一楽照雄は自身の有機農業感を、農村の農村による自治と民主主義の運動だと定義したいと語り、経済活動のみならず政治的・思想的自立の途をと切望していた。自分ができる農業から、農村を変革するという農業へと前進する実践のことである。彼は、安藤昌益を意識していたのかは定かではない。しかしながら、どのような実践のなかにも、それらを構成する思想(社会性)があり、それらをよりどころとして団結しているということだ。そこに、社会部の意味が存在すると確信する。今がどのような時代で、どこに向かおうとしている

※続きは2Pへ

2019年1月の予定

●生協基幹運営/地域活動・催し●

1月ゴンタの丘「常総っ子応援団」は毎週木曜日活動しています。試食会は1月31日に行います。
1/30(水) 定例理事会
2/1(金) 常総生協 生産者の会 総会

●提携・協同・連帯企画●

1/25(金)～26(土) 生協ネットワーク21 専務交流会
1/25(金) 出張みそ作り講座@母親クラブ
1/26(土) 出張みそ作り講座@とみせ幼稚園

社会であるのかを意識できることは、生産者と消費者の靱帯の強化につながると思うからである。

○民主主義に反する国政！～原発再稼働問題～

1月8日、朝日新聞デジタル版は、「日本原子力発電（原電）・東海第二原発（茨城県東海村）の新安全協定が結ばれるまでの経緯が公文書で明らかになった。原電は運転延長の申請期限直前、地元6市村の要求に沿って再稼働の事前了解を盛り込んだ協定案を提示していた。だが朝日新聞が新協定に事前了解を得るとする内容が含まれるかアンケートすると、地元6市村はあると答え、原電はないと回答。当時と異なる姿勢に転じている」と報じた。

新協定は昨年2018年3月29日に締結され、朝日新聞は新協定について那珂市から、6年に及ぶ交渉の経緯を記した公文書を入手していた。新協定は再稼働に際し、原電が立地自治体に加え、周辺6市村からも「実質的に事前了解を得る仕組みとする」と明記し、「茨城方式」として注目を集めた。アンケートは昨年2018年10～11月、原電や6市村に実施された。原電はアンケート後の取材に対し、新協定で6市村それぞれが事前協議を求めることができる権限を担保し、原電は必ず応じる重い義務を負っていると説明した。納得するまでとことん協議を継続することで「実質的に事前了解を得る仕組み」であり、6市村から事前了解を得るという内容は含まれていないと回答した。

東海村の山田修村長は今回のアンケートの回答について、「6年間、交渉を続けた当事者として、何なんだという思いだ。運転延長が認められたので、地元がいい顔をしないでよと思っていますのではないかと話したと報じられている。

日本原電の株主は、電力会社9社と電源開発が中心で、ほかに日立製作所 0.96%、みずほ銀行 0.71%、三菱重工業 0.64%である。三

大金融・産業独占体は、一方で、日本原電の技術面を含め、収益や利点があれば分配を請求する権利を確保し、他方で日本原電の事故を含む大損失においてはわずかな出資金にすぎないから簡単に撤収できる。残りの電力会社9社と電源開発が始末をすることになるが、いずれの会社も、その負担を電力消費者に転嫁することにしかならない。正しく、国策企業の排外主義と本質的に人民との対立を表した反動的内容だ。

○民主主義に反する国政！～過去編～

過去に学ぶのなら、水俣のチッソもそうだったように、原因究明についてや賠償について国家に守られてきたといえる。余談ですが、宇井純の公害原論は是非読んでおきたい1冊である。また、「関東大震災朝鮮人虐殺の記録：東京地区別1100の証言」という本も今の日本を推論する知識になる。宇井純は、「旗色を鮮明にして」事に当たる意義を説いている。常総生協が遺伝子組み換え大豆栽培で闘ったモンサントも、その悪評をかき消す目的から、バイエル社が買収して事業継承を企てるという。

厚生労働省の調査会が「ゲノム編集食品、審査不要」という結論を2018年12月5日公表した。厚生労働省の有識者調査会は、「ゲノム編集技術を使って現在開発中の大半の食品について、安全性審査の必要はなく、国への情報提供だけで販売を認めてよいとする報告書を大筋で取りまとめた」という。国内では、栄養価の高いトマトや肉が多いマダイなどゲノム編集技術を使った食品の市場販売を目指す企業が出ている。比較的緩い規制となることで開発が加速する可能性がある。消費者団体からは、安全性などへの懸念から審査や登録の義務化を求める意見が出ていた。調査会は、「ゲノム編集をした食品は、従来の品種改良でつくられたものと見分けられないなどとして、厳格な規制は難しい」と判断した。

また一つ、国民の主権が踏みにじられた。市場における規制ではなく、研究と生産の停止を常総生協なら呼びかけるに違いない。

多くの人が国の横暴に立ち向かっている。沖縄辺野古の新軍港建設反対の闘い、宮古・石垣の軍事基地化反対の闘いにどう向き合うのか。朝鮮と日本の近代的関係の自己批判的解決をどうするのか。アイヌ民族にとって、開拓された「北海道」ではなく、侵略され虐殺され差別され続けた近代を、日本とロシアの領土と主張されることの怒りとどう向き合うのか。日本は、日清戦争、第一次世界大戦、朝鮮戦争、ベトナム戦争と戦争賠償金と特需による経済の近代化を果たしてきた歴史を刻印している。湾岸戦争以来、急速に軍事化を

推進させてきた政府は、F1 事故を契機に露骨なプルトニウム戦略をとっている。

○どこよりも命を育もうとしている生協であり、物言う生協であり続けてほしい。

そして、そのような地域を形にしたい。商品経済は、人の労働もまた商品とみなす冷たい仕組みだ。生協に血が通うように活発な議論の場を提供してくれることこそ未来がある。

今回を契機に、社会変革をかけて前進する常総生協と共にある社会部を模索したい。



(文責：白鷹農産加工研究会)

鈴木雄一)

ぜひ読んで／私のおすすめ本の紹介！(〇)!

【読んだ感想&おすすめポイント】
この本には日本の将来だけでなく、今現在起きている問題も含めて危機的な状況を伝えています。
【第1章 日本の資産が売られる】では水道民営

【内容紹介】※「BOOK」データベースより
日本で今、起きている、とんでもないこと。日本は出血大セール中！知らずにいると、取り返しがつかないことになる！水と安全はタダ同然、医療と介護は世界トップ。そんな日本に今、とんでもない魔の手が伸びていのかを知っているだろうか？法律が次々と変えられ、米国や中国、EUなどのハゲタカどもが、我々の資産を買いあさっている。水やコメ、海や森や農地、国民皆保険に公教育に食の安全に個人情報など、日本が誇る貴重な資産に値札がつけられ、叩き売りされているのだ。
マスコミが報道しない衝撃の舞台裏と反撃の戦略を、気鋭の国際ジャーナリストが、緻密な現場取材と膨大な資料をもとに暴き出す！



日本が売られる

堤 未果 (つづみ みか)
幻冬舎新書 (860円+税)
2018年10月発行

化、汚染土再利用、種子法廃止、農業規制緩和、遺伝子組み換え表示削減、牛乳流通の自由化、農地法改正、森林経営管理法、漁協法改正、卸売市場解体などの危機が書かれています。
【第2章 日本人の未来が売られる】では、労働者、仕事、企業、ギャンブル、学校、医療、老後、個人情報売られ、私たち日本人が大切にしてきた伝統・文化も危機的な状況が分かりやすく書かれています。
【第3章 売られたものは取り返せ】では、世界的な運動を具体例で紹介されています。その中には、有機農業、協同組合がポイントとなっていることが書かれています。
この本を読むと、今の何でも買える、すぐに届く、欲しいものは手に入る、情報がすぐに届くという時代は続かないことに気づかされます。
くらしを見直し、エシカル消費を心掛けていく事、作り手と消費する側が共に歩んでいく事が持続可能な日本の未来につながると思えました。
【専務理事 伊藤】

●組合員と生産者と職員の広場●

●ながみね農協の金山寺味噌 大好きです。

夏場にきゅうりにつけて食すとおいしいので、今年はずいぶん、夏場にも供給をお願いします。

(取手市 S.S さん)

2年ぶりの登場となり、好評いただき大変嬉しく思います。定期的に企画できるか検討して参ります。

(商品部・小宮山)

●供給担当さん、ありがとうございます！

私は腰痛なので毎回小室さんが商品を運んでくださり助かります。お陰様で常総生協を続けることが出来ます。本当にありがたく思います。

(取手市 J.H さん)

●商品を入れるビニール袋が多いのがずっと気になっています。

包装されている石けんをさらにビニール袋に入れていたり。また、配送の効率の為に袋分けするのもかもしれませんが他の方法を検討していただけないでしょうか。環境に悪いビニールゴミ、毎回スーパーで買うより多いので気になります。

(つくばみらい市 N.M さん)

ご意見ありがとうございます。

現在、ピッキングに使用している袋は確かに小分けの袋を使用しています。大袋を使用し、袋の使用の減を検討したこともあります。最終的な経費削減にならない事、複数の方がいる班の所では、混乱を招くことも想定でき、現在に至っています。マイクロプラスチック(※)問題などの環境問題もありますので、今後も検討課題として取り組んでまいります。

(物流 G 萩原)

※マイクロプラスチックは環境中に存在する微小なプラスチック粒子であり、特に海洋環境において極めて大きな問題になっている。一部の海洋研究者は1mmよりも小さい顕微鏡サイズのすべてのプラスチック粒子と定義しているが、現場での採取に

一般に使用されるニューストーンネットのメッシュサイズが333 μmであることを認識していながら、5mmよりも小さい粒子と定義している研究者もいる。

海洋生物がマイクロプラスチック自体と、それに付着した有害物質(PCBやDDTなど)を摂取し、生物濃縮によって海鳥や人間の健康にも影響することが懸念されている。科学的な検証・検討は途上であるが、発生を減らす取り組みが始まっている。

●身欠きにしんも今までで最高の品質でした！

昆布巻き用の花折昆布について、例年塩分が強すぎて困る…と申しあげましたが今回はぜんぜんしょっぱくなくて、昆布のうま味が凝縮されていたのでご報告いたします。身欠きにしんも今までで最高の品質でした！ありがとうございました。

(取手市 I.K さん)

●みそ作り！

去年牛久市生涯学習センターの調理室で味噌作りを体験させていただき、その後2月に自宅でたしかこんな感じだったよねと、仕込みました。玄関の片隅にずーっとほったらかしで11ヶ月。年が明けて初めての「味噌開き」。全部カビだらけだったらどうしよう…七色のカビとか…と、不安でドキドキしながら開けてみると…。何やら納豆の匂いが…。「えー、ダメなのかなあ。でも、カビは端っこにちょーっとしかないし、大丈夫だよね…。いざ試食！「しょっぱすぎ？」でも市販の味噌を試しに食べると「う、こっちのほうかしょっぱいじゃん。」ということは、大成功！！ほぼ4キロの味噌ができあがりました。玄関にほったらかしだったのに、こんなに美味しくできるなんて！今年も2月に入ったら、がんばって作ります！

(牛久市 S.K さん)

ご意見ありがとうございます。みそ作り特集として毎週16ページに掲載しております。今年も「みそ作り講習会」を各地区でおこなう予定です。案内は別途チラシを配布していきます。こちらぜひご参加ください。

(供給部一同)